

唐松岳 2696m(八方尾根ピストン)

立山の景観を楽しむ

2016年5月2日(月)～3日(火)

メンバー：手塚(L)、岩川(記)

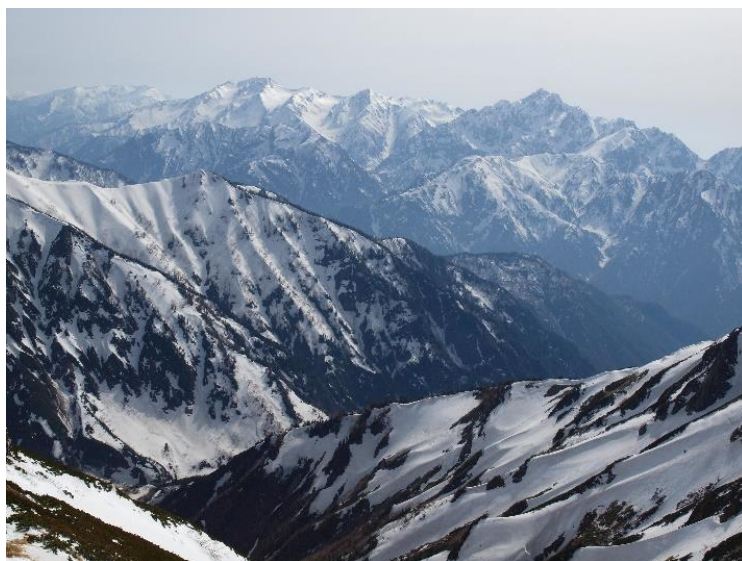
この春山期間は天候がコロコロ変わっていたが、今回の唐松岳山行は大当たりで2日間とも晴天であった。比較的雨に降られることの多い私にとっては貴重な晴天山行で、登り始める前からウキウキである。しかしながら、2月末に仕事で膝裏十字靭帯を痛めたため、完治しているか不安であった。しかも、痛みは下りで出るため登りでは分からない。また平山明神山の時のように足を引きずり下りてくる羽目になるのかとヒヤヒヤしていた。とは言え、分からないものは分からないので、とりあえず「俺の足は治った！！」と言い聞かせることにした。(散歩したり筋トレをしたりして一応リハビリはしている)



鹿島槍と五竜

1日目はまず、リフトで一気に1830mの八方池山荘へ向かう。そこから丸山の手前までは夏道と残雪道が交互に続くが、アイゼン等は必要なかった。のんびりとしたスノーハイクである。白馬、鹿島槍、五竜を眺めながら青空の下を歩くのはとても気持ちが良い。丸山の手前からはやや傾斜があり、雪も付いているためアイゼンを装着した。先行者が大勢いたため、雪が階段状に踏み固められていた。膝が心配なのでありがたく踏み跡を使わせてもらい確実に登る。時間にも余裕があり、写真を撮りながらのんびりと登っていたら、あっという間に唐松岳頂

上山荘の上部の稜線に出た。思わず「おっ！」と声が出る。立山が一望である。この景色が広がる瞬間がたまらない。



唐松岳頂上山荘からの眺望

立山の景色を眺めながら、次はあそこかなと密かに期待を膨らませる。そして、足を目的の唐松岳へ向かわせる。頂上山荘から山頂まではすぐである。唐松岳山頂2696mの大展望も素晴らしかった。360度に広がる北アルプスの山々が出迎えてくれる。



山頂独り占め

山頂を満喫した後は、本日のお宿の唐松岳頂上山荘に向かう。私は、数年前に富士山の山小屋に泊まったことがあるだけで、会に入ってから初は初の山小屋である。例年は大混雑するようだが2日(月)は平日ということもあり空いていた。布団の上で足を伸ばせることがこんなにうれしいとは…荷物を整理して、手塚さんと一緒にコーヒーを注文し、しばしの休憩。暖かい部屋の中で立山の景観を楽しみながら飲むコーヒーは格別である。



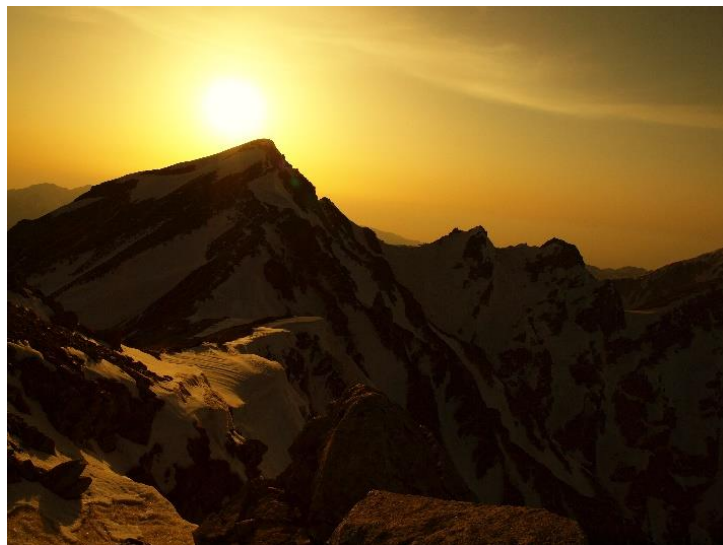
唐松特製コーヒー

その後は、17時からの夕食までフリータイム。私はカメラを持って山荘周辺の散策。取りあえずジャンプしてみた。

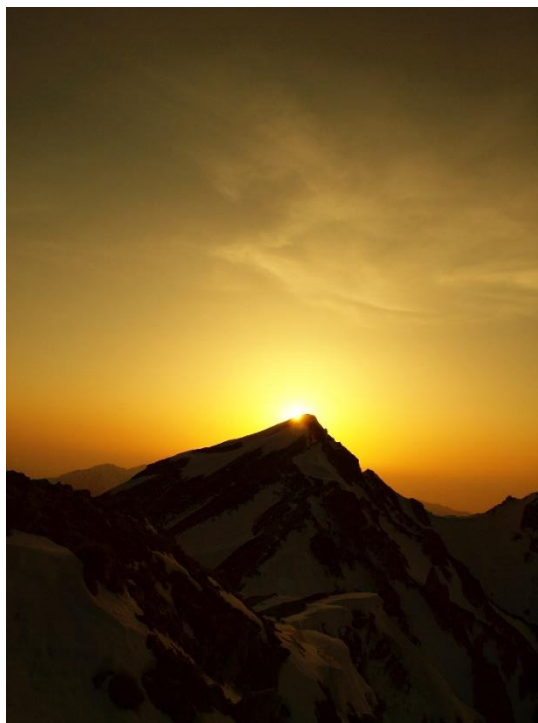


渾身の大ジャンプ

しばらく散策を楽しんだ後は、お待ちかねの夕食。まさか山の上でこんなにおいしいご飯が食べられるとは…贅沢させて頂きました。ごちそうさまです。夕食後は、景色を楽しみながら夕焼けが訪れるのを待った。こんなにゆっくりと過ごすのは久しぶりだなと物思いにふける。その後、日が落ちてきたのでカメラを持って山荘の上の眺望が良いところへ移動をする。夕日が先ほどまでいた唐松岳を照らしてとても綺麗だった。



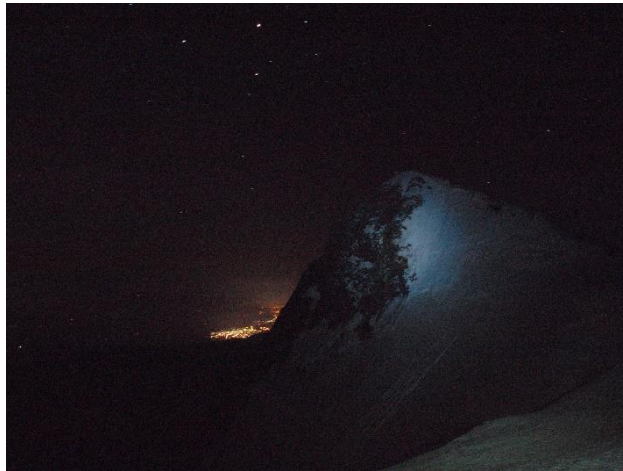
唐松岳に落ちる夕日



ダイヤモンド唐松？

夕焼けの後は、そのまま就寝。翌朝、日の出でも見ようと早く寝たのだが、0時

ごろ目が覚めたのでこそこそと山荘の外へ。見上げると満点の星空が広がっていた。白馬村と思われる夜景も眼下に広がっていた。少しだけ写真を撮ったが、上手く撮れなかったので諦め就寝。次は、三脚を担ぎ上げる体力をつけて再チャレンジしたいと思う。



夜景 牛首方向

明くる朝、日の出を眺めた後、朝食を食べ下山の準備をする。唐松岳と立山の景色をもっと眺めていたかったが、午後から天候が崩れる予報が出ていたため、早いうちに下山を開始した。



立山の景色を楽しむ

昨日は、途中から膝のことをすっかり忘れていたが、下り始めで思い出してしまい非常に不安になった。下りで痛みが出ないことをただただ祈るのみである。丸山あたりまではやや傾斜があるためいつもよりもスローペースを意識した。幸

いなことに問題なく下山を完了することができた。帰りのリフトに乗るころには鹿島槍から雪煙が舞い、次第に風も強くなってきていたため、いいタイミングで下山ができたと思う。

今回、膝のリハビリも兼ねていたが、どうやらグルコサミンを1ヶ月飲んで無事に完治したようだ。靭帯の再生にグルコサミンが効いたかは分からないが、治って何よりである。

膝も治り今年はアルパインに挑戦していきたいので、皆々様ご指導よろしくお願ひします。

記 石川